

2021.7.1 No.112 (季刊)

編集 国立ハンセン病資料館
発行 公益財団法人笹川保健財団

目次

- | | | | |
|----|---|----|--|
| P1 | 2021年7月1日より成田稔（なりたみのる）名誉館長、内田博文（うちだひろふみ）館長体制が始まります | P3 | オンライン連続講座「[らい予防法] 廃止から25年、国賠訴訟から20年 国賠訴訟の意味とその意義を語る」開催 |
| P2 | 2021年夏の企画はオンラインで講演会と子ども向けプログラムのお知らせ | P4 | 研究から 戦後ハンセン病療養所の短歌活動—『陸の中の島』の画期性— |
| P3 | ギャラリー展「私たちの上に、今日、青空が広がった [らい予防法] 違憲国家賠償請求訴訟判決20周年展」 | P4 | お知らせ/利用案内 |

2021年7月1日より

成田稔（なりたみのる）名誉館長、内田博文（うちだひろふみ）館長体制が始まります



成田稔名誉館長



内田博文館長

国立ハンセン病資料館では、2021年7月1日に、14年間にわたり館長を務めた成田稔が名誉館長に就任し、九州大学名誉教授の内田博文が3代目館長に就任しました。

内田新館長は、1946年大阪府に生まれ、専門は刑事法学（人権）、近代刑法史です。京都大学大学院法学研究科修士課程を修了後、九州大学法学部教授、神戸学院大学法科大学院・法学部教授などを歴任。主な著書として、『ハンセン病 検証会議の記録』（明石書店、2006年）、『求められる人権救済法制度の論点』（解放出版社、2006年）、『ハンセン病絶対隔離政策と日本社会—無らい県運動の研究』（六花出版、2014年）、『「人間の尊厳」から「強制入院」を考える』（大阪精神医療人権センター32周年記念書籍、2017年）などがあり、また厚生労働省第三者機関

「ハンセン病問題検証会議」副座長や「ハンセン病問題検証会議の提言に基づく再発防止検討会」座長代理などを務めるなど、長年にわたりハンセン病問題に取り組んできました。

現在は、全国人権擁護委員連合会会長や熊本県ハンセン病問題啓発推進委員会委員長、加えて当資料館常設展示見直し検討会座長を務めています。

成田名誉館長に加えて、ハンセン病回復者の権利擁護を中心とする医療基本法や差別禁止法の法制化の問題のほか、子どもの権利問題にも取り組む内田新館長の下、引き続き当資料館職員が一丸となり、患者・元患者とその家族の名誉回復を図るために、ハンセン病問題に関する正しい知識の普及啓発による偏見・差別の解消を目指してまいります。

2021年夏の企画はオンラインで 講演会と子ども向けプログラムのお知らせ

国立ハンセン病資料館では緊急事態宣言の発出に伴い、4月25日(日)より5月31日(月)まで臨時休館とし、皆さまには大変なご不便をおかけいたしました。今年の夏は、ご自宅から参加していただけるイベントを2つご用意しております。

【オンライン講演会】

今年にはNHK大河ドラマ「青天を衝け」の主人公・しづさわえいいち 渋沢栄一に対する関心が各方面で高まっています。渋沢は近代日本における実業家として著名な存在ですが、福祉の分野でも多くの業績を残しました。その一つがハンセン病問題への取組です。そこで、『渋沢栄一に学ぶ福祉の未来』(青弓社)の著者であるすぎやまひろあき 杉山博昭氏(ノートルダム清心女子大学教授)に、渋沢とハンセン病問題との関わりについてお話していただくオンライン講演会を開催します。ぜひご視聴ください。

〈タイトル〉杉山博昭氏講演会「渋沢栄一の生涯とハンセン病—その事績と功罪をめぐって—」

〈日時〉8月21日(土) 14時~15時30分

〈開催方法〉YouTubeライブ配信

視聴URL <https://youtu.be/eEehOXuhWkl>

【夏休み子ども向けプログラム】

2019年にご好評をいただいた小学生向けの展示解説「夏休みスペシャル!」をオンラインで開催します。今年のテーマは「ハンセン病資料館で学ぶ はじめての多磨全生園」。ハンセン病療養所での現地学習が難しい現状をうけ、資料館に隣接する多磨全生園を舞台に、常設展示室の実物資料や写真、園内の様子などをご紹介します。対象は小学4、5、6年生とその保護者です。展示ガイド約30分、学芸員への質問コーナー約30分の予定です。奮ってご参加ください。

〈日時〉7月22日(木・祝)・24日(土)・8月14日(土)・15日(日)・25日(水) 各10時~11時(予定)

〈開催方法〉オンライン(Zoom)

〈申込〉当館ホームページの専用サイトよりお申込みください。各回20組まで、各組1回限定です。

いずれも参加無料です。

お申込みはこちらから



当館では引き続き完全予約制でのご来館をお願いしております。オンラインミュージアムトークの配信や図書室蔵書のリモート貸出なども実施していますので、皆さまのご利用ならびにご理解、ご協力をよろしくお願いいたします。

(大高俊一郎・西浦直子)



学芸員と撮影スタッフが配信する展示ガイド。山吹舎の1室原寸ジオラマについて解説中。

ギャラリー展

「私たちの上に、今日、青空が広がった」
「らい予防法」違憲国家賠償請求訴訟判決20周年展」

1998年7月31日、菊池恵楓園入所者4名と星塚敬愛園入所者9名の計13名が熊本地裁に提訴しました。これは国のハンセン病政策による人権侵害の事実認定と謝罪と補償を求めたもので、「らい予防法」違憲国家賠償請求訴訟（通称「国賠訴訟」）と言われ、2001年5月11日に原告側が勝訴し、5月23日に国は控訴を断念しました。

今年は、「国賠訴訟」の歴史的な原告勝訴判決・国の控訴断念からちょうど20年に当たります。当館では6月10日～30日の会期で、裁判の争点や判決の要旨、提訴から国の控訴断念までの裁判闘争、「国賠訴訟」の成果を受けた今日までの動きを、関連書籍、文書資料、新聞資料、写真等で紹介するギャラリー展を開催しました。

この裁判は、当初困難な状況から始まりました。提訴者がなかなか増えず、原告は療養所の中で厳しい立場におかれもしました。しかし、審理が進展する過程で理解が広まり、東京地裁・岡山地裁でも訴訟が提起され、社会の人々は支援の運動を行い、原告数は次第に増えていきました。

控訴断念後、国はハンセン病問題の全面的な解決を目指すことを表明し、「ハンセン病補償法」などの施策を講じました。その一方で、「ハンセン病家族訴訟」などハンセン病問題をめぐるいくつかの訴訟がその後も提起されてきました。現在は、回復者と厚生労働省との間で、残された課題の解決に向けた話し合いが続けられています。

ハンセン病回復者の運動の中で大きな意味を持つ「国賠訴訟」をあらためて振り返る機会となりました。
(田代学)



ギャラリー展の様子

オンライン連続講座

「らい予防法」廃止から25年、国賠訴訟から20年 国賠訴訟の意味とその意義を語る」開催



撮影の様子

本年は「らい予防法」廃止から25年、国賠訴訟判決から20年目の節目の年にあたります。そこで、当館では改めて「らい予防法」廃止と、国賠訴訟の意味と意義について有識者6名の方々にお話しいただくオンライン連続講座を開催いたしました。

第1回目の徳田靖之氏（弁護士・ハンセン病訴訟西日本弁護団共同代表）は、これまで出会った回復者の方々のエピソードを交えながら、自身のハンセン病問題への関わり方、近年の家族訴訟等についてお話しくださいました。

第2回目の藤崎陸安氏（全国ハンセン病療養所入所者協議会事務局長）、第3回目の森和男氏（同会長）はこれまでの入所者による全療協の闘いを振り返りながら、「らい予防法」廃止の意味やその後の園内の変化、また現在、入所者がおかれている課題についても言及されました。

第4回目の志村康氏（ハンセン病違憲国家賠償訴訟全国原告団協議会会長）、第5回目の豎山勲氏（同事務局長）は、患者・回復者の被害の実態について具体的にあげ、裁判を通してより広く社会に伝えることができたとその意義をお話しされました。さらに今後、病を理由とした差別が起こらないようにハンセン病問題を多くの方に知ってほしいと訴えていました。

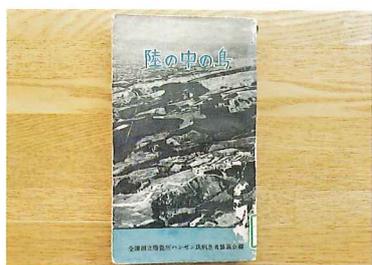
第6回目の内田博文氏（九州大学名誉教授）はハンセン病政策を支えた法曹界の責任にも言及されながら、今後の課題についてもお話しくださいました。

コロナ禍にも関わらずご協力くださいました講演者の皆さまに改めて感謝申し上げます。

全6回の講演内容は、引き続き当館YouTubeチャンネルにてご覧いただけます。
(金貴粉)

研究から

戦後ハンセン病療養所の短歌活動—『陸の中の島』の画期性—



全患協編『陸の中の島』（新興出版社、1956年）は、全国の療養所初の合同歌集で、279人による約3000首の短歌が収録されています。

戦前から療養所内では、短歌は盛んでしたが、多くは孤独や諦観を基調としたものでした。しかし、戦後は作品の傾向が一変します。

・浮浪児になりし吾子とめぐり会ふクリスマス夜の病床の夢（永井鉄山・駿河療養所）

・舌端の痛きに耐えつつ点字学ぶ君と肩並ぶ灯火の下（中村七鶯・光明園）

家族への思いや闘病生活といった従来の療養所短歌の主題であっても、戦前とは明らかに異なる表現や、新しい時代の人間像が打ち出されています。

・病斑の顔かがやきてプロミンの効きし言ひあふ少年二人（村井葦巳・全生園）

入所者たちの意識の変化の背景には、戦後に登場した新薬プロミンの治療効果が大きく影響していました。

また、「救らい思想」への違和感や患者運動などが堂々と歌われているのも特徴です。

・救らいの名にて暮らせる事業家がメモ取りて帰り実現はせず（芥木創・青松園）

・癩予防法案の粉碎誓ひ炎天を国会議事堂前に吾らは坐る（赤石秋夫・全生園）

このほか、断種・墮胎に抗議したものや、朝鮮戦争や水爆実験などの社会的出来事に視野を拡大した作品などが目立ちます。

7月17日（土）のミュージアムトークでは、「戦後ハンセン病療養所における短歌」と題して、本書が切り拓いた戦後の短歌活動の画期性についてお話しします。当館HPより事前申込のうえぜひご参加ください。（木村哲也）

お知らせ

■【ラジオ風連続講座】

ハンセン病研究センターインタビュー

会期

第一回 2021年7月9日（金）

「ハンセン病研究センターってどんなところ」

第二回 2021年7月16日（金）

「ハンセン病研究センターの一日」

第三回 2021年7月23日（金）

「ハンセン病研究センターで働くには」

当館YouTubeチャンネルにて配信

<https://www.youtube.com/channel/UC-gp-oP50g4m5865iTiFCFQ>



■その他イベントにつきましては、当館HPまたは公式Twitter、Facebookをご覧ください！

利用案内

新型コロナウイルス感染拡大防止をはかるため、入館制限や予約制の導入などを行っています。詳しくは当館公式ホームページをご覧ください。

■開館時間 10：00～11：30
13：30～15：00

■休館日 毎週月曜日（祝日の場合は開館）
年末年始、国民の祝日の翌日、館内整理日

■入館 無料（要事前予約）

■交通

- ・西武池袋線 清瀬駅南口より
西武バス「久米川駅北口」行バスで約10分
（「ハンセン病資料館」下車）
- ・西武新宿線 久米川駅北口より
西武バス「清瀬駅南口」行バスで約20分
（「ハンセン病資料館」下車）
- ・JR武蔵野線 新秋津駅より
西武バス「久米川駅北口」行バスで約10分
（「全生園前」下車、徒歩10分）
または徒歩約20分

〒189-0002 東京都東村山市青葉町4-1-13
TEL 042-396-2909 FAX 042-396-2981
URL <http://www.hansen-dis.jp>